

表 3533 2015年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0~	2.0~	3.0~	4.0~	5.0~	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	2,338 (80.2)	364 (12.5)	123 (4.2)	38 (1.3)	22 (0.8)	32 (1.1)	2,917 (100.0)	1,985	4,902	0.36	1.01
腹膜透析 (APD) (%)	1,351 (80.5)	188 (11.2)	64 (3.8)	34 (2.0)	18 (1.1)	23 (1.4)	1,678 (100.0)	1,097	2,775	0.41	1.21
腹膜透析 (CCPD) (%)	549 (78.3)	104 (14.8)	21 (3.0)	13 (1.9)	6 (0.9)	8 (1.1)	701 (100.0)	391	1,092	0.39	1.05
合計 (%)	4,238 (80.0)	656 (12.4)	208 (3.9)	85 (1.6)	46 (0.9)	63 (1.2)	5,296 (100.0)	3,473	8,769	0.38	1.08
記載なし (%)											
総計 (%)	4,238 (80.0)	656 (12.4)	208 (3.9)	85 (1.6)	46 (0.9)	63 (1.2)	5,296 (100.0)	3,473	8,769	0.38	1.08

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy

2015年調査